

# 飯田市小中連携・一貫教育

## 平成 25 年度 実践の成果と課題 及び 平成 26 年度の取組について

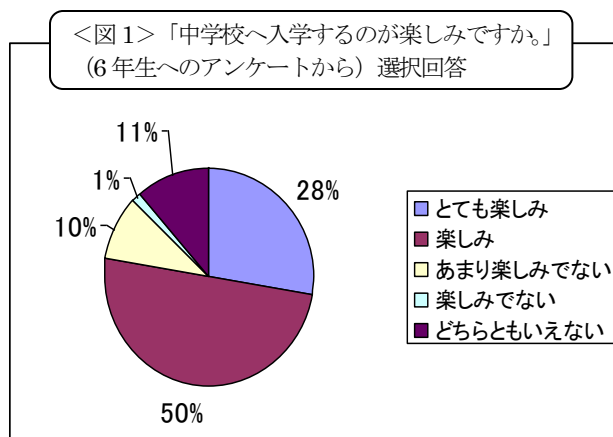
飯田市教育委員会

### 1 平成 25 年度の成果と課題

#### (1) 子どもの状況と意欲の高まりについて

##### ① 中学校生活への期待感の高まり

図 1 は今年度 3 校の小学校 6 年生約 240 名が 12 月に実施したアンケートの中で「中学校へ入学するのが楽しみですか」の問いに答えた割合である。同じ 3 校の昨年度の 6 年生約 240 名へのアンケートでは「とても楽しみ」が 22.5%、「楽しみ」が 48%、「あまり楽しみでない」が 13%であった。これを比較すると、小学校 6 年生は中学校生活への期待感が高まっていると言える。また、中学校職員による小学生への授業を実施した後のアンケートでは、90%以上の児童が「分かりやすかった。中学校での授業が楽しみ。」等の感想を述べている。



これらを比較すると、小学校 6 年生は中学校生活への期待感が高まっていると言える。また、中学校職員による小学生への授業を実施した後のアンケートでは、90%以上の児童が「分かりやすかった。中学校での授業が楽しみ。」等の感想を述べている。

これらの要因としては、今年度の取組によって、小中学校間や小学校間の交流が従来より盛んになったことが考えられる。施設分離型の小中学校であっても、児童生徒が一堂に会して学び合い、交流し合う機会を設定することは、日程調整の面で難しいところがあるが、大変有効であると言える。

##### ② 学習への不安感の解消

図 2 は、小学校 6 年生全員を対象にしたアンケートの結果である。小学生は、中学校生活での不安なこととして、教科学習を挙げている割合が多い。

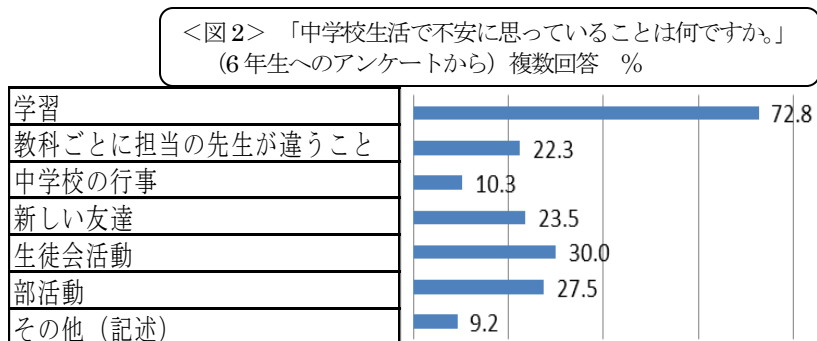
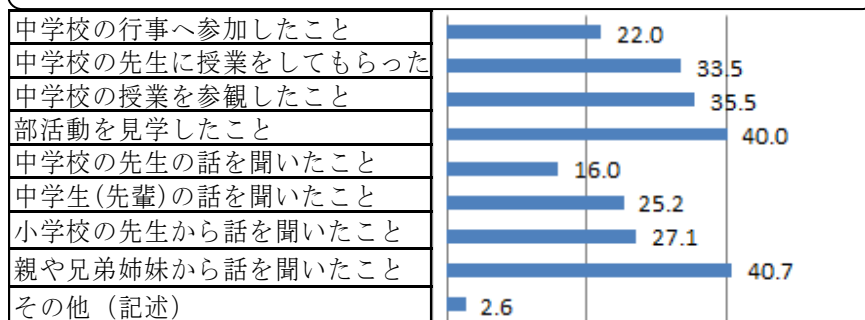


図 3 は、今年度の中学校 1 年生全員へのアンケートの結果である。小学生の時に中学校教職員による授業を受けたことや中学校の授業を参観したことは、中学校生活を知る上で参考になったこととして回答した割合は相対的に多い。校種を越えた教職員の関わりや教育支援指導主事による支援、さらに児童生徒が共に活動する機会等の小中連携・一貫教育の取組によって、中学校生活への期待感や意欲を高め、不安感を解消することにつながると言える。

小中学校は、不安感の解消を図る取組を充実させるとともに、様々な状況を踏まえた上で、子どもが不安感や困難を乗り越えられるよう指導・支援をしていくことが求められる。

<図3> 「小学生の時に、中学校生活について参考になったことは何ですか。」  
(複数回答 %)



### ③ 不登校に関わる中1ギャップの解消

市内の不登校児童生徒の状況は、様々な取組により人数が減少してきている。中学校1年生の新規の不登校の状況は、上半期の6ヶ月間では過去最少人数であった。今年度は、いわゆる不登校に関わる中1ギャップが解消されつつあると言える。中学校1年生の新規の不登校生数は、12月末現在でも昨年度に比して3分の1の人数に減少し、過去最少人数となっている。このことは小中学校間の情報共有や個に応じた細やかな支援の成果であり、来年度以降もこの取組を継続し、確かな成果となるようにしたい。

## (2) 教職員の取組と意識について

### ① 実践を通して実感する必要感

全中学校区において、合同職員会、合同研修会、合同教科会等の会が開催され、「目指す子ども像」についての協議やテーマ別の研究協議が行われた。中学校区の教職員が共通の目標を持つためには、話し合う機会を持つことに意義があり、そのような会議等を通して多くの教職員が連携・一貫教育の必要感を高めたという中学校区が見られる。

### ② 具体化しつつある学力向上への取組

小中学校の職員合同の教科会や研究会等を通して、一貫した学習指導が必要であることは共有できている。小中学校を通した指導計画を検討し、一部の教科について実践している。今後は小中学校相互の授業参観や合同研究会、小中学校教職員によるチームティーチング等の実践を重ねる中で、指導観・教育観を共有し、9年間を通した一貫性のある指導となるようにしていく。

今年度から飯田市教育委員会と飯田市校長会の共催で実施することとした飯田市教職員研修会は、中学校区単位での連学年による研修会であり、具体的な学習指導研究ができる場として継続する。

学力に関わる客観的なデータについては、把握する方法を含めて検討し、追跡的な評価ができるようにしたい。なお、平成25年度の全国学力・学習状況調査においては、小学校国語と算数の「主として活用に関する問題」、中学校国語の「主として知識に関する問題」は大きく向上している。

### ③ 取組を焦点化する必要性

図4は1つの中学校区内の教職員に取ったアンケートであり、今年度の段階では連携・一貫教育のための協議の時間が確保できず、育みたい力を共有した上での取組となっていない状況が伺われる。

原因として、中学校区内の会議で多くの部会や課題別の会が設定され、それぞれの会で取り組む内容が決められるため、大規模の中学校区では、小中連携・一貫教育の取組が総花的になりがちであることが考えられる。

小中連携・一貫教育の成果を教職員が実感できるようにするには、時間を要する面があるが、取組を焦点化し、子どもの変容を評価し、確かな手応えとなるようにしたい。

<図4>教職員アンケート「連携・一貫教育の課題と思うこと」

小中が共に話し合う時間がない。	50%
共通理解が難しい	16%
進め方が分からない。	15%
育みたい力についてずれがある。	9%
一部の連携で終わっている。	11%
学習の一貫指導までは至っていない。	23%

### (3) 地域との連携について

#### ① 小学校では進展し、今後は中学校が課題である学校と地域との連携・融合

全小中学校の学校評議員の一員に、公民館長又はまちづくり委員会等の地域組織の関係者が就任しており、学校と地域との連携・融合の基盤が形成されつつある。学校の現状や教育方針、具体的な取組についての協議や学校評価から地域との連携のあり方を焦点化していく。

公民館やまちづくり委員会等の地域組織は、小学校区単位に設置されており、小学校では学習活動や安全指導等の各種の学校支援が積極的に行われている。一方、中学校では地域と連携する仕組みづくりが進んでおらず、どのようなことを学校が求め、どのような連携が出来るのかといった協議ができていない校区が多い。

8月に開催したシンポジウムで取り上げたように、来年度は中学校区の実情に応じて、「学校支援地域本部」や「コミュニティースクール」に関する飯田らしい仕組みづくりについて検討し、既存の地域活動を関係者間で調整を図り、実践可能なことから地域と連携した教育活動を展開する。

#### ② 充実してきた小中一貫キャリア教育

各校においてふるさと学習を重ねており、平成26年度の実施計画では5つの中学校区がキャリア教育を小中連携・一貫教育の柱、又は研究課題に据えている。来年度も「人」・「もの」・「こと」を貴重な資源として活用しつつ実践を重ね、小中一貫キャリア教育となるよう一層の充実を図る。

今年度の「市政懇談会」では、3つの地区で中学生が地域との関わりや将来の願い等を発表し、2つの地区で学校関係者が学校の取組状況の発表を行った。また、地域について学んだ生徒が地域活性化に向けて考えをまとめ、地域組織や市へ提言した学校も見られた。ある中学生は「地域の存在の大切さに気付き、自分たちは地域で大きな役割を担っていることを自覚できた。自分たちにできることに取り組みたい。」と語った。系統的なふるさと学習によって、地域の一員としての自覚が高まってきている姿である。

## 飯田市小中連携・一貫教育の基本方針（実施要項より）

- (1) 義務教育9年間において、各校や地域の特色を生かした一貫性のある教育活動を行い、地域を愛し、将来の飯田市の担い手となるようムトス<sup>注1</sup>の心、結い<sup>注2</sup>の心を育む。
- (2) 9年間の発達段階に応じた教育活動のカリキュラムや指導体制の研究を行い、子どもたちの学力・体力の向上と生徒指導の充実及び不登校問題の解決を図る。
- (3) 中学校区単位で、小中連携・一貫教育によって育みたい力を共通理解し、教職員相互の連携を活性化し指導力を高める。
- (4) 小学校間・小中学校間の交流を一層進め、小学校から中学校への円滑な接続を図る。
- (5) 学校評議員や公民館を含む地域組織及びボランティア等の教育活動への参画・支援によって、地域と学校との連携を深め、飯田の資源を積極的に活用した連携・一貫教育を行う。
- (6) 現存する学校施設を生かした形で連携・一貫教育に取り組む。（施設分離型）

注1 「・・・しようとする」（「・・・せむ（ん）とす」という行動への意志や意欲を表す。

注2 飯田（結いの田）の語源とも言われる「結い」の精神による協働・共助・つながりのことを言う。

## 2 小中連携・一貫教育をさらに推進する平成26年度の取組

（別紙「飯田市小中連携・一貫教育 H26 ステップアップ展開のイメージ」参照）

### (1) 全中学校区で取り組む5つの重点

#### ① 職員会での実施計画の共有

各校の職員会において、平成25年度の成果と課題の確認及び平成26年度実施計画を議題とし、全職員で方針や具体的な取組について共通理解を図る。また、実践状況を適時に評価し、全職員で共有して推進する。

#### ② 中学校区内の推進委員会による実施内容の協議及び地域との連携の推進

中学校区推進委員には各校の連携・一貫教育係職員及び教育支援指導主事が加わると共に、必要に応じて公民館を含む地域組織の関係者を加え、地域との連携のあり方について研究し、具体的な取組を推進する。

教育支援指導主事は、各校の小中連携・一貫教育係又はコーディネーターを支え、学校と公民館や地域組織の窓口との調整を図る役割を担い、学校と地域との連携を密にしていく。

#### ③ 「目指す子どもの姿」を具現する焦点化した取組とその評価

合同職員会・研修会や中学校区内推進委員会等を通して、9年間を通した「目指す子どもの姿」や取組について検討する。その際、取組を焦点化し、中学校区として重点的に展開できるようにする。

学校評価や学校評議員会において、教育方針に基づく具体的な取組についての評価をし、以後の取組に反映させる。

#### ④ 個々の子どもの学力向上に向けた一貫性のある指導についての研究協議

小中学校間や小学校間での授業参観や学習指導研究を通して授業改善を図ると共に、指導観・教育観について協議を深め、指導力向上に資する。

各教科、道徳、小学校の外国語活動及び総合的な学習の時間並びに特別活動の指導計画を中学校区内で検討し、一貫性のある指導となるよう研究を進める。

支援シートは、飯田市教育委員会が提案した形式を参考にして中学校区で統一したものを使用し、記録の共有と個に応じた継続的な指導・支援を行う。

#### ⑤ 職場体験学習やふるさと学習等を通じた飯田型キャリア教育の実践

地域と学校との連携を深めつつ、地育力<sup>注3</sup>を積極的に活用した飯田型のキャリア教育を展開する。（注3 地域にある資源を活かし、飯田の価値と独自性に自信と誇りを持つ人を育む力を言う。）

キャリア教育の指導計画や実践状況について他の中学校区と情報交換をし、9年間の活動が体系化したものとなるよう研究を深める。

### (2) 中学校区ごとの研究課題と特色ある取組の一例

#### ① 飯田東中学校区

- ・「丘の上」の地域に愛着をもち、「自主」「愛他」の精神に満ちた子どもを育てるための、小中学校の教師間の指導観や教育観の共有、目指す子どもの姿の実現に向けた具体的な実践
- ・小中合同のりんご並木活動、9年間の見通しを持った心の教育の育成の推進、学力分析と授業改善の取組、丘の上の子どもを守る会やまちづくり委員会と連携した取組

#### ② 飯田西中学校区

- ・ふるさとを愛し、ふるさととともに生きている自分を見つめ、ふるさとの未来と私の夢を主体的に創造していくことができる児童・生徒の育成に向けた、キャリア教育を中核とした小中連携・一貫教育の実践
- ・地域や家庭と連携した小中一貫キャリア教育の実践、「結い交流プログラム」（児童生徒の交流）や「職員結いプログラム」（教職員プログラム）の充実、公民館と連携したキャリア教育の検証

#### ③ 緑ヶ丘中学校区

- ・ふるさとを愛し、豊かな心と夢に向かってたくましく生きる力をもった子どもの育成
- ・「つなぐ学習」等の実践を通じた基礎的・基本的な内容の定着と個に応じた指導の充実、「ふるさと学習」を中核にしたキャリア教育の実践、学習ボランティアの積極的な活用

#### ④ 竜東中学校区

- ・たくましく生き抜いていくことができる子ども、地域を背負って立つ子どもを育てる教育活動の工

夫と実践、小規模校のよさを生かした授業、行事、交流活動等の工夫と実践

- ・小中連携による合同学年行事や合同学習の実施、「目指す子どもの姿」の共通理解に立った日常の教育活動の小中一貫した指導、地域と連携した取組（交流スポーツ大会、ふるさと竜東の集い等）

⑤ 竜峡中学校区

- ・心身ともにたくましく、地域とともに歩む子どもを育てる教育活動の工夫と実践
- ・小中連携（3小学校連携学年会等）や小中連携（小中合同研修会等）による活動、キャリア教育実践計画案の作成、竜峡中学校地区懇談会や連絡協議会を通した子どもの姿の共有と連携した指導

⑥ 旭ヶ丘中学校区

- ・9年間で育成する「目指す児童生徒像」についての職員、保護者、地域の方々による話し合いと、それを達成するための小中が連携し一貫した指導の検討と実践
- ・「目指す児童生徒像」についての検討と共有（旭ヶ丘中学校30周年記念に合わせた地域の方々も参加するパネルディスカッション）、中学校区内共通の個別の支援シートを活用した一貫した支援

⑦ 鼎中学校区

- ・一人一人の確かな学びとよさを伸ばすための連携した指導・支援の確立と実践
- ・小中合同教科等係会（一貫した指導計画の作成と教材研究）、小中一貫キャリア教育の体系化、JRC活動の一環としての児童生徒のボランティア活動

⑧ 高陵中学校区

- ・「みやましい子」を目指した教育活動の工夫と実践
- ・学力・体力向上、生徒指導、学習習慣形成、特別支援教育、小中・小小交流の5視点からの推進、3校PTAによる小中連携・一貫教育の意義と取組状況についての情報交換、地域との共有化

⑨ 遠山中学校区

- ・郷土を愛し、社会の一員として、自立した生活ができる子どもの育成
- ・三校の授業研究研修会、発達段階に応じた話す・聞く活動の位置付け、小中一貫した体力（持久力）の向上、地域との連携を密にした防災体制の稼働、小中一貫のキャリア教育全体計画の実践

